

Ⅲ 財務の概要

1. 当該年度の主な事業

教育・研究条件の充実

3,395,138 千円

特色ある教育の充実をはかるために、教育・研究をより推進します。

大学・短大では、学生の満足度の向上及び中途退学率の改善をはかるため、昨年度導入した「面談システム」をさらに充実させ、「HUsystem」の活用と、「学びのカルテ」による学生一人ひとりの学びの姿を可視化し教学マネジメントを推進していきます。

また、本年度より学部学科横断（大学）の「ICT・データ活用副専攻」を導入します。研究面では、地域に根ざす大学として、地域ニーズに対応した研究の推進を行います。

学生等福利厚生の充実

計 301,695 千円

・奨学金の充実

271,598 千円

経済的理由により修学が困難な学生及び学業ならびに課外活動等で優秀な成績を修め、就学意欲の顕著な学生等に給付した奨学金です。

・学生助育及び福利厚生 of 充実

12,689 千円

活躍めざましい課外活動への補助、あるいは新入生のオリエンテーション、学生等の健康管理等、在学生生活の充実体制を整えます。

大学・短大では、昨年度設置した「障がい学生支援オフィス」の効果的な運用により、学生の早期支援につながる体制整備を行います。

・キャリア教育支援

17,408 千円

建学の精神に基づき、「和」のこころを持ち、学園訓「感謝」「寛容」「互譲」を大切にす人材を育成します。加えて、知識偏重型の学習ではなく、学生が「何ができるようになるか」（知識活用型）の学習を重視することで、人間力と応用力とを備えた「ありがたいのプロフェッショナル」を育成します。

教育環境の充実

625,256 千円

施設・設備の充実は在学生生活を豊かにするという基本理念のもと、今後も本学園の歴史を未来に活かし、交流の場となるキャンパスづくりを推進するため、逐次充実を図ります。

神戸国際中学・高校では、前年度に引き続き生徒1人に1台のタブレットPCの配付を行います。

地域に開かれた学園づくり

32,413 千円

学園の基本目標である「地域に愛される睦」「質を重視する睦」を目指して、自治体・企業・地域住民等に向け、全学的に推進している共同研究、公開講座、公開授業等を広く社会にアピールしていきます。

大学・短大では、地域の知の拠点、交流の場として地域にとってなくてはならない高等教育機関であり続けることを目指します。

また、社会的ニーズに対応したリカレント教育の提供も積極的に提供していきます。

大学の発展のみに留まらず、共に活動する中で豊かな社会の実現をめざし、学生の社会参画を目指し、高等教育機関としてSDGsを推進します。

国際交流の充実

9,498 千円

海外の学校との交流や海外研修制度の充実など、教育の国際化を積極的に推進していきます。

大学・短大では、「グローバル人材の育成」を積極的に推進するため学生の異文化体験の「場」であり、留学生に対する日本語教育や各種サービスを担う「留学生・国際交流センター(仮称)」を開設します。

神戸国際中学・高校では、NZの語学研修を再開、兵庫大学と連携してハワイ大学への語学研修を実施します。

志願者数の確保

159,672 千円

安定した学生等確保の対策を強化し、より教育研究の向上を目指します。

入試説明会、オープンキャンパス、個別学校訪問、入学予定者対象の「フォローアッププログラム」や附属須磨ノ浦高等学校の兵庫大学附属校化プロジェクトなどを積極的に行い、本学の教育内容を発信して、安定した学生等確保の対策を強化します。

大学・短大では、競合校との差別化を行い、オープンキャンパスでのプレゼン強化やホームページの掲載等積極的に行っていきます。また、対面広報を重視しながらwebやSNSなどを活用したハイブリット型の広報を展開していきます。

神戸国際中学・高校では、前年度に引きオープンスクールの実施とミニ学校説明会を実施回数を増やし、広報していきます。